



関東徳高会 No.4

敬愛
向学
共生

発行所: 〒142-0062 品川区小山 4-5-2 荏原不動産 TEL 03-3781-0446 発行人: 関東徳高会会長 喜多正吉

【ふるさと関連たより】 (写真提供は徳之島万華鏡他)

○奄美・琉球世界自然遺産登録暫定リスト入り

2014 年 1 月 31 日、政府は世界自然遺産登録を目指す「奄美・琉球」をユネスコの暫定リストに追加することを決めた。リストに追加される事で正式な候補地として国際的に認知される。最短は 2016 年夏の実現を目指す。奄美は奄美大島と徳之島の自然が対象地域とされている。

【不法投棄のゴミをボランティアで回収する人の闘いがある】



○奄美群島日本復帰 60 周年祝賀各地で開催

平成 25 年は復帰 60 周年の節目の年にあたり各地区で記念行事が開催された。東京奄美会は賀詞交歓会に併せ 1 月 20 日上野精養軒で先陣を切り開催。10 月 6 日には渋谷公会堂において記念総会を開催し会員約 2000 人が集い先人の「無血の民族運動」に思いを馳せた。



○長寿・子宝フェスタ in 伊仙が開催された

平成 25 年 10 月 26 日少子化対策の森まさこ大臣をお迎えし長寿・子宝フェスタを開催した。平成 26 年 2 月 15 日厚労省が公表した市区町村別特殊出生率の全国 1 位は伊仙町、徳之島町 6 位、天城町 10 位。



徳之島の人口推移(人)	
昭和 30 年	50,932
昭和 60 年	33,632
平成 2 年	31,231
平成 17 年	27,167
平成 24 年	24,921

○大島高校 21 世紀枠で甲子園出場 H26.3.25

奄美から初の甲子園出場を決めた大島高校野球部は強豪龍谷大平安(京都)と 25 日に対戦し 2-16 で大敗を喫したが選手達の躍動感あふれる活躍もさることながら大応援団の鳴りやまない楽しい応援は観戦した人々の心に高校生らしいスポーツのあり方、選抜 21 世紀枠の意義を、また奄美のユイの心呼び起こしたに違いない。 6 千人収容のアルプス席を埋めた応援団



【会務報告】 H25 年 4 月 1 日～H26 年 3 月末迄

平成 25 年 4 月 1 日以降の主な会務を報告いたします。

- H25. 4. 10 : 平成 25 年度総会案内発送
- H25. 5. 18 : 平成 25 年度総会 於: 大井町「きゅりあん」 89 名参加。同窓会本部福田利光会長他、郷友会会長が参席。定例の講演は第 10 代会長林正憲さんが行った。
- H25. 6. 06 : 徳之島夢振興会議 10 周年祝賀勝幹事長出席
- H25. 6. 22 : 関東徳高会役員会 於: 五反田「塩梅」 平成 25 年総会の総括と収支報告
- H25. 7. 07 : 関東徳之島町会総会 井口副会長出席
- H25. 7. 13 : 関西徳高会緑友会合同会 喜多会長出席
- H25. 7. 14 : 関東伊仙町会総会 喜多会長出席
- H25. 8. 04 : 関東天城町会総会 喜多会長出席
- H25. 9. 29 : 関東徳州会総会 喜多会長出席
- H26. 2. 24 : 関東徳高会役員会 於: 五反田「塩梅」 平成 26 年総会準備会。 会計概算報告

【会計報告】

報告期間: 平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日

収入 (円)		支出 (円)	
前期繰越金	436,107	総会・懇親費	316,168
総会会費	360,000	役員会議費	34,819
総会寄付金	149,000	事務・通信費	102,355
来賓祝儀	80,000	郷友会等祝儀	117,200
通信賛助金	267,040	本部総会祝儀	50,000
本部支援金	50,000	雑費(祝電等)	8,243
役員会余剰金	3,912	(支出小計)	628,785
利息他雑収	146	次期繰越金	717,420
収入合計	1,346,205	支出合計	1,346,205

上記の通り仮報告いたします。

正式には会計監査を経て総会にてご報告いたします。

平成 26 年 3 月 31 日

関東徳高会会長 喜多 正吉 印 省略

【あとがき】

「時」は 3 つの顔を持っている様に思います。1 つは忙しく日々移ろい人生を駆り立ててくれますし、世界をかけ回り、時に睨み合いが転じて戦争を起こしてしまいます。2 つ目はとても辛いことや失敗を癒し失恋した事も乗り越えさせてくれます。3 つ目は止まってくれた様な「時」です。本来止まることはないのですが、仲間とそろって参加する同窓会にその現象は生じます。あの夢多き青春時代の友情の心がよみがえる時です。

「豊かな精神文化」が同窓会を通じて醸成されることを期待しあとがきとします。(文責: 喜多)

ご挨拶 「キマイ」を「キバイ」に

関東徳高会会長 喜多 正吉

会員の皆様にかかれましては益々御清祥の事とお喜び申し上げます。

平成 24 年 6 月から関東徳高会の会長職を致しております 16 回卒の母間出身、喜多正吉でございます。



この平成 26 年度の総会を迎えまして会長の任務を終えることとなりますが、会員はじめ各役員の皆様にも物心両面から支えられて伝統ある関東徳高会の継続と財務面の強化の先鞭を成すことが出来たと思います。紙面をお借りしまして心から厚くお礼申し上げます。

会長職務の一つとして関東徳州会ならびに 3 ケ町の郷友会との交流があり参加させていただきました。

夫々の会の役員の方々が公私の時間を割いては「郷友」「町内」「シマチュ」という無上の絆を大切に「キマイ」(元気)を「キバイ」(頑張り・エネルギー)に変えて、郷友会のために無償性と継続性・相互扶助の活動しているお姿を見ることができました。ボランティアというよりは俗に「島サバクイ(世話人)」と称する精神文化を多く拝見し徳高会の会員も活躍されていてとてもうれしく思いました。特に女性の「キバイ」が目立つ会は「キマイ」があって盛況でした。会長職が女性の郷友会もあり、安倍晋三首相が成長戦略の柱の一つとして掲げる「女性の活躍」を先取りした時世の流れにマッチングしているとの思いを致しました。

徳高会の運営にあたりましては女性役員の方々に支えられることも多く、どこにそのキマイはあるのだろうと小職も「キバイ」続けられました。

徳高の前身の亀津町立高等女学校も、戦後昭和 21 年青年学校に併設され、戦前の良妻賢母教育から脱却し時代の変化に対処する人づくりがあったと思います。現実には保守的な考えが強く、男性社会からの脱却が進まず昭和 61 年に男女雇用機会均等法が施行されて平成 9 年に共働き世帯数が 5 割を超えました。女性の活躍を社会が理解し対処し合うのは今でしょう！

最後に健康体からこそキマイは出ます。「キマイ」を「キバイ」に転換する限り同窓会は不滅です。会員のご健勝を祈り、熱く感謝申し上げます。

ご挨拶 時の流れ

関東徳高会第 4・11 代 会長 松林 清雄 第 5 期生

1955 年に卒業してから 59 年が経ちました。

日本の人口は 2008 年をピークに減少期に入り、少子高齢化が進み私はその仲間入りをしています。



遺伝子が決めるところによると人が生きられる限界寿命は 110 歳前後だですので、まだまだ十分な余命があることとなります。

6 年後の 2020 年の東京オリンピックまでこの十分な余命を黒糖焼酎を酌みかわしながら楽しい人生にしようではありませんか。

受け継がれていく徳高の「建学の精神」を守り卒業生が全国各地でご活躍中です。

年を重ねていくと若い頃の事がいろいろ思い出されます。昭和 52 年麓高明会長の後に、第 4 代の関東徳高会会長の責をお受けし、この重責をまっとうすることができるか不安で一杯でした。ベテランの福田毅雄幹事長、会計の豊正行氏他役員と共に、昭和 53 年関東徳高会総会を 28 回卒業の後輩の歓迎会を兼ねて三州倶楽部で盛大に行いました。昭和 55 年に開催されました母校 30 周年記念事業に関東徳高会として全面的に協力し郷土出身の諸先輩、先生方にもご協賛いただき 成功させることができました。

まわりまわって 11 代会長にもまた責をおく事になり栄信宏幹事長他、役員の方々に 2 年間ご協力をいただきました。平成 12 年関東徳高会を三州倶楽部で行いました。100 名程の参加があり、当時の市ヶ谷修校長先生にもご出席いただき母校の近況報告等を聞くことができました。その時の話の中に「燃える生徒、燃える教師、燃える PTA」を目指して指導に当たりたい等、話された事が思い出されます。

「平成の時代を豊かにし、「不滅の徳高会」を目指していこう！」

【編集者メモ】

- ・松林清雄元会長は 昭和 30 年卒業 西阿木名出身
- ・昭和 44 年 6 月 松林労働管理事務所設立 現会長
- ・事務所: 東京都中央区新川 電話 03-3553-9601

○平成25年 総会 フレッシュに開催される

平成25年度の関東徳高会総会ならびに懇親会は5月18日(土曜日)12時から大井町駅前の品川区立総合区民会館「きゅりあん」にて新卒者11名を含めた会員91名参加のもと開催された。

同窓会本部(蔵越会)から昨年に引続き福田利光会長が関西徳高会からは永田秀成会長が遠路ご参席された。郷友会関係からは雪山渥美徳州会会長、平山徳廣伊仙町会会長、松林純子天城町会会長、堀田統徳之島町会会長、松村久徳之島町会顧問が、恩師では飯田富枝先生(旧姓新島)が参加された。

昨年に続いての会場利用と終日の借用をした事で受付準備に慣れてはきたものの91名の受付、会費やご芳志の金銭処理と受付の多忙さと混乱は、今後の参加者増加を考えると幹事増員など工夫が必要と反省させられた。

第1部は勝光重幹事長により司会進行し、遠藤美枝子副会長の開会の辞、続いて郷土遥拝がされた。今年は11名の新生高校卒の参加があり共に校歌の斉唱を行うことができた。

喜多正吉会長挨拶の後、来賓を代表して蔵越会本部の福田利光会長から、故郷では今年各地奄美群島日本復帰60周年祝賀の企画や、第5期卒業生158名全員の蔵越会入会報告などがあった。本部事業報告として空手部の全国大会支援の出費やブラスバンド部の楽器移動用トラック購入を支援した事などが話された。

関東徳高会恒例のご講演は、林正憲第10代会長から「母校講演を終えて」と題し自分が所属するロータリークラブの大宮中央と韓国安養市の高校生インターアクト交流10人枠に2人分を徳高生用として確保し平成13年から隔年派遣してきていることを受けて、上松博造校長からの強い講演要請がされ行われたことが紹介された。

生徒達への講演内容は、今日のまでの生い立ちを希望されたので古い写真などを織り交ぜ、プロジェクターを用いて「一つのことにとらわれることはない道はいくつもある」努力をあきらめるな等の披露があった。母校愛の強さ、素晴らしさを味わった講演でした。

会長が議長を兼て議事進行。会務・会計・監査報告が各担当からあり、第1部を井口京子副会長が閉めた。



○挨拶する福田利光蔵越会会長 ○講演者：林正憲氏(右)

第2部は小坂田上、勝光重さんの司会で進められた。南幸静副会長の開会、豊正弘前会長の乾杯、ご来賓の各位から挨拶を戴いた後、懇親会に移った。

懇親会是小坂田上さんの御前風でオープン。天城町会婦人部「きゅらむん会」の踊りや保岡笑さんの空手演技新卒者11名の紹介と「夢を叶え島や両親に恩返しをした」とのフレッシュな発言は会場内に輝きを与えた。

今回も1回卒生の林正二郎、諏訪守正、松田健一、芳原宣男さんが元気よく参加しました。傘寿を祝って粗品を贈りました。益々のご健勝とご長寿を祈ります。フレッシュさを味わった総会は印象深く終わりました。

○平成25年度通信費・総会寄付に感謝！！

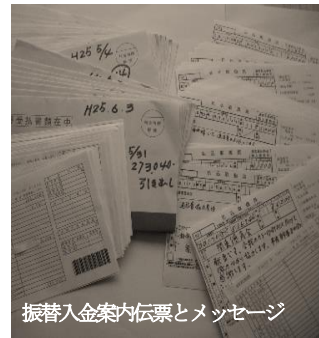
関東徳高会の継続的發展に平成25年度も多くの方がご芳志を賜りました。謹んで厚くお礼申し上げます。平成24年度、25年度のご芳志額を報告します。

	平成24年度	平成25年度
通信賛助金	237,140	267,040
総会寄付金	102,000	149,000
合計	339,140	422,040

金額は増加傾向です。崇高な同窓会愛に感謝です！

また、通信欄のメッセージを読む事は会の運営に携わる者の労を忘れる喜びです。

- ここに一部紹介します。
- ・年金生活で入院中ですが会報で元気になります。
- ・会報のカラー印刷化に向けて協力します。
- ・事務方ご苦勞様。
- ・夫婦です案内は一部でよいです。等々



振替入金案内伝票とメッセージ

○暑くて熱くて楽しいベトナム訪問ツアー

関東徳高会の役員を主体に、15名でベトナムツアーを組み発展途上国のエネルギーを体感できました。元徳高会幹事長で伊仙町出身外務省勤務の栄信宏さんが赴任中に訪問する約束を实らせたものである。平成25年5月11日～15日までの機内2泊、現地2泊3日の急ぎ旅でしたが栄さんご案内有難う。(T. M)



○平成26年3月卒業生の進路状況 第6期生

平成25年度の卒業生は116名。見事に全員の進路が決まり、それぞれの目標に向かって巣立ちました。

- 卒業生の進路状況をご報告します。(既卒含む)
- ・国公立大学 11名 私立大学 45名 短大 14名 専修学校 41名 大学校等 5名
- ・民間企業 6名 公務員 2名

[参考]進学した国公立大学の名称：筑波大学、京都大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学、鹿児島大学、大阪府立大学、九州工業大学、名城大学。

○平成25年度卒業式および同窓会入会式開催

平成26年3月3日、第6回卒業式が行われた。普通科男子47名、女子55名、総合学科男子7名、女子7名、計116名が無事卒業した。卒業式に先立って

2月28日には同窓会入会式が行われ、116名の卒業生全員が同窓会に入会した。この折に関東徳高会の紹介と歓迎同窓会のお知らせのチラシを配布して戴きました。



○平成26年度入学式 平成26年4月8日

母校では入学式が穏やかな日差しの中で行われた。募集人員は、160名の所125名で定員割れ状態の入学式となった。入学後徳之島を代表する生徒として自覚し、夢に向かってはつらつと楽しく悔いのない高校生活を！と当会には祝電を送った。



○快挙！25年連続出場：女子空手部

全国高等学校空手道選抜大会は、平成25年3月25日～27日に和歌山県ビッグホエールで開催された。第32回大会に際し徳高の女子空手道部は25年連続出場の偉業を成しとげ栄えある記念表彰を受け専門誌「JKFan」に食事風景の写りが紹介されました。



表彰を受け食欲も旺盛な女子部員

【会員便り】 同窓会など会員便り投稿お待ちしております

○新川二郎&たがみジョイントコンサート

「東京の灯よいつまでも」でヒットした演歌歌手の新川二郎さんと伊仙町目手久出身の小坂田上さん(旧姓東田26回卒・川崎市在)のジョイントコンサートが6月30日夜、徳之島町文化会館で開かれた。たがみさんは持ち歌の「あゝ犬田布岬」や「島影」などを熱唱した。同級生や知人などを見つけては、握手や持ち前のユーモアで場内を沸かせた。チケットも前売りの段階で完売する状況で好評を博した。友情出演で小野幸子さん(8回卒・木之香出身旧姓郡山)が「あゝ犬田布岬」の舞を披露した。たがみさんは平成21年犬田布岬に歌碑を建立して伊仙町に寄贈するほどの島思い。(現在関東伊仙町会会長)



たがみさん建立歌碑

○女性会員の快挙！！ おめでとうございます

藤田和子さん(16回卒・亀津出身旧姓当・久喜市在)の小説「思い込み」が彩の国第44回埼玉文学賞「小説部門正賞」に選ばれ11月1日授賞式があった。1月27日に徳高会有志は日本橋「ゆうじん」で祝福の宴を催した。藤田さん(旧姓当)は「表札」や「家族だから」の文学作品を人生の節目に出版しており、島の文化(風習)を取り入れた作品が多い。3月28日には南日本文学賞も受賞してダブル受賞の快挙となった。



○関西徳高会・緑友会合同総会開催される

平成25年7月13日(土)関西緑友会(里井達吉会長)と関西徳高会(永田秀成会長)は合同の総会を開催した。関東においては徳高の同窓会は学校の統合に合わせて5年前から関東徳高会のみと呼称として新卒生を受入れてきている。関西においても統合の組織とするために今日まで交流を図り、合同総会の開催に至っている。新設高校内山初代校長を招き90名程で盛会でした。

